

KSU
Kyushu Sangyo University

No. 1 2001.3.28

CONTENTS

創刊によせて……………1
 派遣留学生10人帰国……………1
 特集「留学」……………2
 国際交流協定締結先の横顔……………3
 平成12年度国際交流のあゆみ……………4
 在籍留学生ズームアップ……………5
 留学生会会長に聞く……………5
 留学生の四季……………6
 卒業生通信……………7
 国際交流情報の発信基地……………8

発行/
 九州産業大学国際交流センター
 〒813-8503
 福岡市東区松香台2-3-1
 TEL. (092)673-5588
 FAX. (092)673-5611



創刊によせて



国際交流センター所長
 西村 岩雄

国際交流は、いまや聞き慣れないことばではなくなり、官庁、企業、大学及び民間などあらゆる領域で交流が広く行われ、その交流レベルはさまざまですが、ただひとつ言えることは、国際交流において人と人の繋がりが大事だということです。

今回創刊となりました国際交流センター報のタイトルになっている「JUNCTION」(ジャンクション)とは、連絡・接合点・合流点の意味があることから、人と人の交流を大切にしたいとのコンセプトに基づき、国際交流センター報のタイトル名にもっとも相応しいと考えました。

今後、国際交流の現状やエピソードなどを掲載し、みなさまに楽しく読んでいただけるよう、より良い誌面づくりに努めてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願いたします。



昨年9月から交換留学生として来日しているフランス・リール科学技術大学のグレゴリー・デュブスさん(左)とレミ・ボシェットさん(右)

派遣留学生10人帰国

平成12年8月から平成13年1月までの6ヵ月間の予定でリバプール・ジョン・モーズ大学(イギリス)、リーズ・メトロポリタン大学(イギリス)、アピリン・クリスチャン大学(アメリカ)、リール科学技術大学(フランス)の4大学へ留学していた学生10人がこのほど帰国しました。

今回帰国したのは、イギリスのリーズ・メトロポリタン大学に留学していた井本寛美さん(経済学部3年)・河口みやさん(経済学部3年)、リバプール・ジョン・モーズ大学に留学していた山中美樹さん(経済学部4年)・川畑修吾さん(商学部第一部3年)・依由季さん(国際文化学部3年)・山内かおるさん(国際文化学部3年)、アメリカのアピリン・クリスチャン大学に留学していた藤田桂子さん(国際文化学部3年)・加登ももこさん(国際文化学部2年)、フランスのリール科学技術大学に留学していた三好奈穂子さん(国際文化学部4年)・亀井由香さん(国際文化学部3年)の10人で、どの顔も出発時とは見違えるほど自信に満ち溢れ、一回り大きくなって帰ってきたように感じました。

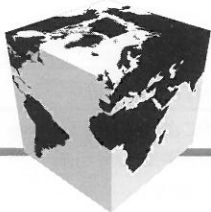
派遣留学生のうち、2人に感想を聞くことができました。

リバプール・ジョン・モーズ大学に留学していた山中さんは、「リバプールでの半年間は、本当にあっという間でした。最初はリバプールの強いアクセントにショックを受け、不安な気持ちでいっぱいでしたが、慣れてくると友達もたくさんでき、本当に楽しい毎日でした。辛いこともありましたが、仲間とともに乗り越えることができ、今回の留学を通して、いろいろな意味で自分をより成長させることができました。これから、大学を卒業し、社会人になりますが、リバプールで身につけた自信や学んだことを生かして立派な社会人になりたいと思います」と語ってくれました。

また、アピリン・クリスチャン大学へ留学していた藤田さんは、「英語を学ぶ上で、何にでも積極的に参加することは、とても大切だと思いました。初めの数ヵ月は、アメリカ人の話していることを理解することができず、会話をするのがとてもいやでしたが、途中から会話しようと努力すると、相手も私にわかるように話してくれました。英語力よりもまずは、話したいという気持ちが大切だとわかりました。今回、アメリカに留学することができて本当に良かったし、すべての経験が、今後役に立つと思います」と語ってくれました。

(注：文章中の学年はすべて派遣時の学年)





特集「留学」

～今、なぜ留学が～

みなさんの周りで、現在留学している、または、留学経験のある友人や知人を探すことは、そう難しいことではないでしょう。それほど、留学というものが身近になった感があります。たしかに、一昔前に比べて、留学という言葉のもつ響きが変わってきたことが言えます。留学のかたちも時代の変化と共に多様化し、留学を志す人のいろんな動機や目的にあった留学ができるようになってきました。学問だけでなく、技術、語学修得を通じて人的交流を深め、異文化社会において相互理解を高めることは、国際社会のニーズとも言えます。

インターネットの普及に象徴されるように、地球がだんだん狭くなり、居ながらにして、世界のどこにいても言葉やパソコン画面を通じて、コミュニケーションが取れるようになりました。とは言っても、若い学生のみなさんは、自分の可能性を試したり、感動を直接手にしたいもの。いつも挑戦的でありたいと願うのは当然のことです。留学することによって、自分を精神的に強くし、自立したい、また、外国の大学・大学院で学位を取得したい、語学を学びたい、など未来に向かって新たな目標を立てることは、きっと皆さんの人生を豊かで、輝かしいものにするでしょう。

これからも、留学形態はさまざまに変化していくので、多くの選択肢の中から選ぶことができるようになるでしょう。

～チャンスは誰にでもある～

本来、留学とは、学問や技術を深めるための一つの手段であり、目的でもありました。そして、通常、1年間や2年間の長期間にわたって外国に留まって学ぶことを言いました。

今や、留学は一握りの学生たちの特権ではありません。自分の目的や人生プランに合わせて、短期間から長期間まで、語学力や資金力に見合ったコースなどを探すこともできます。

だからと言って、自分がおかれている現状から逃避したいとか、海外への漠然としたあこがれから、というような安易な動機づけから実行するのは禁物です。「備えあれば憂いなし」と言われるように、留学も例外ではありません。目的を明確に定め、留学準備を万全にすれば、留学できるチャンスは誰にでもあります。

「鉄は熱いうちに打て」と言われるように、何事にも好奇心が旺盛な若いみなさんにとってチャンスというもの、じっと待つのではなく、自分の手でつかんでほしいのです。

留学することが現実からの逃避ではなく、自分を大きく変えることや異文化体験や何かを学ぶという具体的な目標さえあれば、半分は実現に近づいたとみてよいでしょう。21世紀、皆さん一人一人が活躍する舞台は、すぐそこにあるのです。

～外国語が苦手という前に～

留学するには、その国の言葉に堪能でないと留学できないと尻込みしていませんか。もちろん、できることにこしたことはありません。極端に言えば、「留学したいという気持ちさえあれば、だれでも留学できる時代」なのです。いっそのこと発想を転換して、外国語が苦手だからこそ、留学したいと思ってみてはいかがでしょうか。今は、外国語が苦手だからと言って、留学をあきらめる必要はありません。そのためには、思い立ったときからちゃんとプランを立て、外国語の勉強を始めればよいのです。そういう意味で、「留学する前から、もう留学は始まっている」と言っても過言ではありません。

本学には最先端のLLライブラリーを備えており、積極的な利用を呼びかけています。ほかに、みなさんの周りにも外国語を勉強する機会がたくさんあるはず。お金をかけず、多少の時間をかけてステップを踏みながら、能率的に上達するノウハウを自分なりに工夫してみたいかがですか。そのためには、まず、日本語(母国語)で自分の思いを相手に正確に伝えることから始めることも、実は外国語の勉強にもなるのです。日頃から、豊かな自己表現の習慣を身につけることが、外国語に上達する近道であると同時に、実は留学実現への近道でもあるのです。

～本学の派遣留学生の声～

これまで、本学から海外の交流協定校に留学した学生は、約40人に上りますが、彼らからいろんな感想が聞かれました。帰国後、外国語に自信がただけでなく、「よく勉強するようになった。勉強する楽しさがわかるようになった。」「世界を自分の舞台と思えるようになった」「友達づくりがうまくなった」など、帰国後に一回り成長した学生から強い自信がうかがえます。その他、自己の人生にとってかけがえのない思い出となったなど予想以上の収穫を得たようです。これからも、魅力ある留学が実現するためには、留学を希望する一人一人が綿密なスケジュールを立て、意思力で実行に移すことが肝要であると痛感します。

留学関係の書籍を読むだけでなく、派遣留学生など留学体験者の話を聞くのも、情報収集の一つとしてより効果があると言えます。

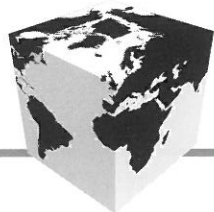
～将来のキャリアにつながる道を探ろう～

これからは、スペシャリストの時代と言えましょう。「留学後にどうなりたいか。何をしたいのか」をじっくり考えてほしいと思います。もちろん、キャリアアップだけが留学のすべてではありません。しかし、「外国語を学ぶための留学」から「外国語で何かを学ぶ」留学へと一歩踏み込んでほしいのです。すなわち、最終的には、留学や外国語を目的ではなく、手段として捉えてほしいのです。専門分野を見つけ、そして専門性の高い語学力を身につければ、国際舞台での強力な武器となります。留学中に真の語学力を身につけてこそ、帰国後の就職活動に役立つだけでなく、活躍の場が無限に広がることでしょう。

～留学をトータルサポート～

国際交流センター(中央会館2階)では、留学を志す学生のために随時相談に応じております。本学の派遣留学に関することをはじめ、認定留学、その人に見合った個人留学の留学情報を提供すると共に、準備段階からのプラン作成から留学に不可欠なTOEFL受験対策まで、本を読むだけでは決して得ることのできないヒントや、種々のアドバイスを行っています。

留学が決まる前から、そして、決まってからも、予想していなかった事柄が出てきたときに、また、将来の進路選択の一つとして留学をどのように位置づけたらよいのか迷ったときなどに、ぜひ相談に来られてみてはいかがでしょうか。



国際交流協定締結先の横顔

平成13年2月28日現在

大学間交流

天津大学

(Tianjin University)
中華人民共和国・天津市
創立 1895年
学部等 11学部
学生数 約19,000人

天津大学は、中国の近代教育上最初の大学校として1895年天津大学の前身である北洋大学として開校、1951年に現在の天津大学へと名称が変更され、1959年には中国の国家重点大学に指定された。創立後100年以上の歴史をもち、中国国内や世界的にも屈指の理工学系大学として知られている。

国際交流にも力を入れており現在25カ国70校の大学と国際交流協定を結んでいる。



リバプール・ジョン・モーズ大学

(Liverpool John Moores University)
英国・リバプール市
創立 1970年
学部等 16学部
学生数 約16,000人

リバプール・ジョン・モーズ大学は、地元密着型の大学で、学生はリバプール市内に点在する新旧さまざまな校舎で学んでいる。

学内には近代的な図書館をはじめ最新のLL設備、OA学習センターを持ち、厚生施設も充実している。なかでも1,800人収容の寮は、世界各国からの留学生たちの交流の場となっている。

また同大学は、国際交流に極めて熱心であり、世界各国の大学と国際交流協定に基づく学生の交換留学を行うと同時に私費留学生が多く集まっており、留学生の受け入れ体制が整備されている。



リーズ・メトロポリタン大学

(Leeds Metropolitan University)
英国・リーズ市
創立 1970年
学部等 5学部
学生数 約18,000人

リーズ・メトロポリタン大学は、リーズ市の中心部にあるシティキャンパスと市の中心部から約5キロ北に位置するベケットパークキャンパスの2つのキャンパスを持っている。

教育内容では、建築学、化学、社会政策、行政学の分野での評価が高く、また産業界との結び付きが強く、実践的教育が特徴で卒業生の就職率も高い。

学内には学生会館、銀行、各種商店、バー等の設備があり、プール、体育館、夜間照明付きの全天候型運動場等体育施設も充実している。



アビリン・クリスチャン大学

(Abilene Christian University)
米国・テキサス州アビリン市
創立 1906年
学部等 4部門(学士号課程117・大学院課程40)
学生数 約4,500人

アビリン・クリスチャン大学は、アメリカ南西部の中心ガラスから300キロに位置する静かな環境の学園都市アビリン市にある。

同大学は、キリスト教の環境下でリベラルな教養を身につけるためのクリスチャン教育を目指している。

学生は全米50州から、また外国人留学生は60カ国から約300人が学んでいる。キャンパス内の食堂は年中無休で、図書館は朝7時30分から夜12時まで開館しており、多くの学生が開館ぎりぎりまで利用している。



リール科学技術大学

(Université des Sciences et Technologies de Lille)
フランス・リール市
創立 1560年
学部等 8学部
学生数 約27,000人

リール科学技術大学は、経済・社会学系と理工学系からなり、別名リール第1大学という。

リール第1大学の他に、法学、医学系のリール第2大学と人文科学、芸術系のリール第3大学があり、科学者・細菌学者として有名なパスツール氏が初代学部長を務めたことがあるほか、世界的な学者を数多く輩出している。

リール市は、ベルギーとの国境に近いフランドル地方の中心で、フランス第4の都市である。

TGV(フランス超特急列車)でイギリス・ロンドンへ2時間、ベルギー・ブリュッセルとパリへ1時間の距離にあり、ヨーロッパ統合の交通の要所に位置している。



スポーツ交流

中央大学校

(Chung-Ang University)
大韓民国・ソウル市
創立 1918年
学部等 16単科大学
学生数 約27,500人

中央大学校は、1918年創立の中央幼稚園が前身で、1945年中央女子専門学校に改編、1953年総合大学に昇格、同時に名称を中央大学校に改称し現在に至る。

キャンパスはソウル市内とソウル市から車で約1時間の安城キャンパスの2カ所にある。

安城キャンパスには、最新の設備を誇る



図書館と充実した体育施設があり、ソウル五輪に5人が出場したバスケットボール部、国内ナンバー1の評価を得ているサッカー部及び硬式野球部等が活動の中心地になっている。

なお、文化面においては、芸術、音楽大学が有名で、韓国の放送、映画、演劇、音楽の各方面で活躍する有能な人材を輩出している。

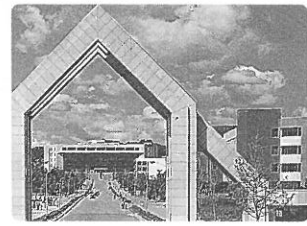
学部間交流

忠南大学校 経商大学

(Chungnam National University)
大韓民国・大田市
創立 1952年
学部等 12単科大学
学生数 約17,000人

忠南大学校は、1952年道立忠南大学校として開校、1957年大学院を設置、1962年忠北大学校を併合し忠清大学校に改称、1963年忠北大学校との分離により、忠南大学校に改称し現在に至る。

1995年韓国の国立大学に認定され、同年に韓国初の大学総合評価において3位に選ばれた。



また積極的な国際交流活動でも知られており、外国人留学生のための韓国語教育プログラム等が充実している。

蔚山大学校デザイン大学

(University of Ulsan)
大韓民国・蔚山市
創立 1970年
学部等 11単科大学
学生数 約10,500人

蔚山大学校は、1970年蔚山工科大学として開校、1984年総合大学に昇格し、同年大学院博士課程を設置現在に至る。

韓国の三大企業の一つである現代グループが経営している大学としても有名で、地域社会のなかでシンクタンク的な存在として、重要な役割を果たしている。

また学生の就職についても現代グループが支援体制をとっているため、韓国の大学における就職率は全国3位と高く、産学協同事業の成果があらわれています。



東西大学校デザイン学部

(Dongseo University)
大韓民国・釜山市
創立 1992年
学部等 8単科大学
学生数 約5,000人

東西大学校は、1992年東西工科大学として開校、1995年大学院を設置、1996年総合大学に昇格と同時に校名を東西大学校に改称現在に至る。

教育方針は、外国語の教育、コンピュータの教育、産学協同の教育などを重点においている。

学内には完全電算化になった中央図書館とマルチメディアセンターがあり、国内外と連携を強めている。学生の為の厚生施設も、学内にギャラリーをはじめ旅行代理店、学生食堂、銀行等が設置されており充実している。



上海工程技術大学芸術設計学部

(Shanghai University of Engineering Science)
中華人民共和国・上海市
創立 1978年
学部等 本科21・専科15
学生数 約5,000人

上海工程技術大学は、1978年上海交通大学機電分校として創立、1985年現在の大学名に改称し現在に至る。

なお、設立時の母体となった上海交通大学は、行政官を育成する大学で、江澤民主席の母校である。

大学には全日制21の本科と15の専科があり、工程技術、経済管理をはじめ、芸術設計などからなっている。上海市に象徴的な改革・開放政策に不可欠な工業技術、芸術設計分野の人材輩出を主な目的とし、産学を緊密に一体化している。



中国人民大学外国語学部

(Renmin University of China) 中華人民共和国・北京市
創立 1937年
学部等 25学部
学生数 約16,500人

中国人民大学は、25学部39専攻の博士授与学科と76専攻の修士授与学科を擁する総合大学で、中国政府が現在推進している「21世紀の重点大学プロジェクト」でも、中国全土17校の一つとして指定を受けている。

特に人材育成に力を入れており、これまでに数多くの著名人や専門家を輩出してきた。世界中25カ国50以上の大学や科学研究機構と学術交流を展開している。



東国大学校文科大学

(Dongguk University)
大韓民国・ソウル市
創立 1906年
学部等 17単科大学
学生数 約16,000人

東国大学校は、1906年に明進学校として開学、1930年中央仏教専門学校に改称・昇格、1946年4年制大学に昇格し東国大学校に改称、1953年韓国最初の総合大学として認可を受けた私立大学の有力校である。

キャンパスはソウル市と慶州市の2カ所があり、仏教大学と文科大学は伝統があり有名である。1979年開設された日本学研究所は韓国有数の日本学研究中心として有名である。



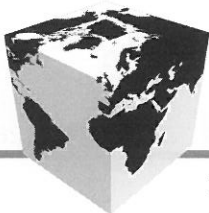
ボルドー美術学校

(Ecole des Beaux-Arts de Bordeaux)
フランス・ボルドー市
創立 1878年
学部等 4学科
学生数 約400人

ボルドー美術学校は、福岡市の姉妹都市フランスボルドー市にある市立の伝統校である。

学科は、美術(絵画・デッサン・彫刻・版画・写真・ビデオ)、デザイン、コミュニケーション及びグラフィックアートの各からなっており、グローバルな視野と創造力を持ちジャンルをこえたアートを目指す学生を育てている。現在日本、イギリス、ドイツなどからの留学生が在籍している。





平成12年度国際交流のあゆみ

九州産業大学における国際交流は、年々盛んになって来ています。平成12年度における代表的な国際交流を次に掲載しております。掲載されたもの以外にも、多くの学部で海外研修等が実施されるなど活発な国際交流が行われております。



平成12年5月10日(水)～5月16日(火)
中央大学校(韓国)への本学バスケットボール部の派遣
◎目的：スポーツ交流のため
◎派遣教職員 学生部長 菅 十一郎 教授
芸術学部 飯岡 正麻 教授
(バスケットボール部長)
学生課 堺 照美 職員
国際交流センター 元炳善職員
(バスケットボール部監督)
学生18人



平成12年5月16日(火)～5月23日(火)
中央大学校(韓国)からのサッカー部の受入れ
◎目的：スポーツ交流のため
体育部長 鄭 奉 燮 氏
体育課長 具 本 行 氏
サッカー部監督 曹 景 鎬 氏
学生 28人



平成12年7月27日(木)～8月1日(火)
忠南大学校経商大学(韓国)からの学生の受入れ
◎目的：学生交流のため
経済学科 震 震 漢 教授
貿易学科 具 鍾 淳 教授
貿易学科 尹 基 官 教授
行政室 朴 炳 碩 室長
大学本部企画室 襄 柄 宣 職員
学生 31人



平成12年7月24日(月)～8月1日(火)
蔚山大学校デザイン大学(韓国)からの学生の受入れ
◎目的：学生交流及び集中講義受講のため
デザイン大学長 韓 相 惠 教授
デザイン大学 全 聖 福 教授
デザイン大学 金 恩 榮 助教
学生 40人



平成12年6月21日(水)～6月25日(日)
リール科学技術大学(フランス)からの教員受入れ
◎目的：学術交流のため
経済学部長 アルノ・リス 教授
元経済学部長 フィリップ・ロレ 教授
経済学部 萬代 幸 助教授
リール首都圏商工会議所
フランソワ・ヘルトロ氏



平成12年10月3日(火)～10月5日(木)
中国人民大学(中国)からの教員受入れ
◎目的：学長表敬訪問及び学術講演会のため
副学長 周 建明 教授
陸 華生 専任講師



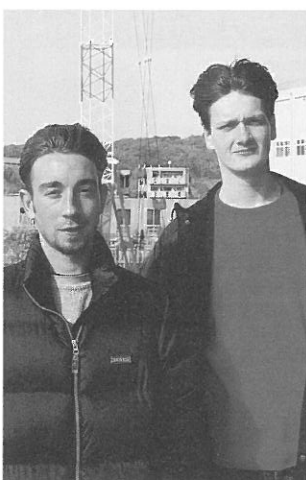
平成12年11月1日(水)～11月6日(月)
天津大学(中国)への教員派遣
◎目的：学術交流のため
◎派遣教員：
工学部機械工学科 副島 光洋 教授
工学部電気工学科 嶋津 好生 教授



平成12年7月～12月
リーズ・メトロポリタン大学(イギリス)からの交換留学生受入れ
◎受入れ学生 サラ・バックマンさん



平成12年10月～12月
ボルドー美術学校(フランス)からの留学生受入れ
◎受入れ学生 エロティエ・タリスさん



平成12年9月～平成13年7月
リール科学技術大学(フランス)からの交換留学生受入れ
◎受入れ学生
グレゴリー・デュブスさん(左)
レミ・ポシェットさん(右)



平成12年11月27日(月)～11月29日(水)
蔚山大学校デザイン大学(韓国)への教員派遣
◎目的：蔚山大学校開校30周年記念
教授作品国際展開に伴う
教員交流及び特別講義のため
◎派遣教員：
芸術学部長 宇田川宣人 教授
デザイン科主任 河地 知木 教授
デザイン学科 落合 太郎 教授
(特別講義担当)



平成13年3月3日(土)～3月5日(月)
韓国地区修学懇談会開催に伴う教職員の派遣
◎日程：3月3日(土)ソウル地区
(ロッテワールドホテル)
3月4日(日)釜山地区
(ロードビーチホテル)
◎派遣教職員
学生部長 菅 十一郎 教授
経営学部 高 時 天 教授
学生課 日野 年春 係長
国際交流センター 元炳善職員



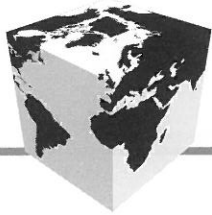
平成13年3月14日(水)～3月19日(月)
天津大学(中国)からの教員受入れ
◎目的：学術交流のため
荆 子 洋 副教授
高 建 平 副教授

現在交流中

平成13年3月3日(土)～3月29日(木)
リール科学技術大学(フランス)への教員派遣
◎目的：学術交流(客員教授)のため
◎派遣教員： 経営学部 土井 一生 助教授

国際交流センターへの来訪

来訪年月日	大学名等(国名)	訪問者名	目的
平成12年 4月20日(木)	東明大学 産業デザイン学科 (韓国)	Jang, Kil-Hwan教授 他 学生38人	学内見学
4月25日(火)	リバプール・ ジョン・モーズ 大学(英国)	ジョン・コリンズ 主任講師	交換留学生 との面談
5月13日(土)	サザンクロス大学 (豪州)	マリリン・フェイスリング氏 カサンドラ・グラント氏 マクラレン・温子女史	表敬訪問 学内見学
5月23日(火)	サザンクロス大学 (豪州)	マクラレン・温子女史 他 教員 1人 学生 4人	表敬訪問
7月19日(水)	順天第一大学 (韓国)	張国崇教育研究所長 他 教員 5人 学生 87人	学内見学
10月12日(木)	梨花女子大学校 言語教育院(韓国)	Kwon, Hyuk-Min 企画調査主任	大学講座 PR
11月1日(水)	西安建築科技大学 (中国)	徐徳龍 学長 王晓昌 院長 李 崢 主任	表敬訪問 学内見学
12月15日(金)	桂園造形芸術大学 (韓国)	柳宅相 副教授 他 教員 2人 学生 40人	学内見学
平成13年 2月1日(木)	北京中央民族大学 (中国)	王錫宏 教授	表敬訪問
2月14日(水)	韓国コミュニケーション デザイン協会(韓国)	金洪鍊会長 他 教員 11人 通訳 1人	学内見学

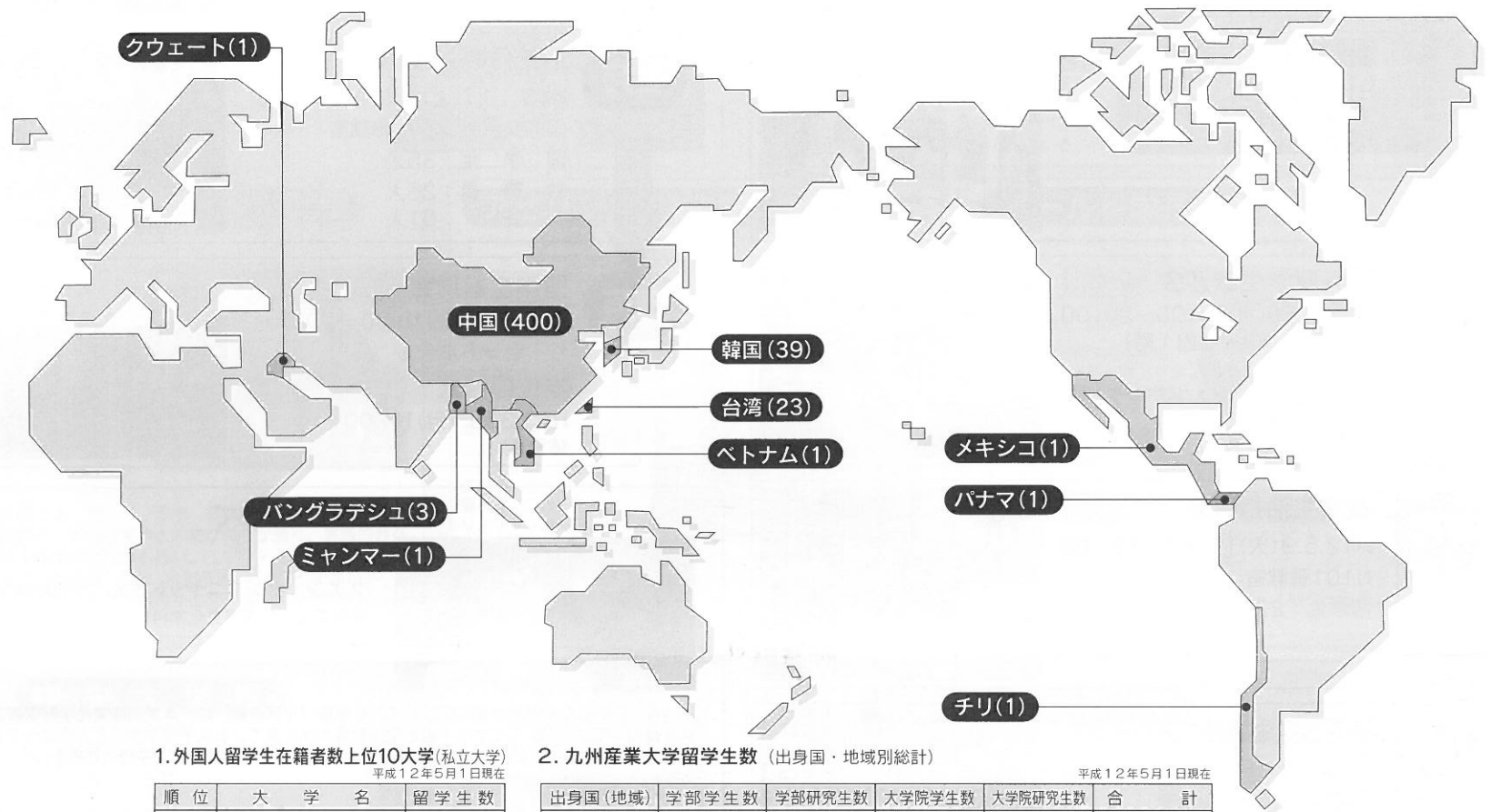


在籍留学生ズームアップ(九州産業大学留学生の現状)

九州産業大学では世界各国から多くの外国人留学生在籍しています。留学生数は下表1に示すとおり、私立大学では西日本随一、全国でも慶應義塾大学に次いで第6位を誇っています。また、出身国・地域別では下表2と地図上に示すとおり世界の10の国と地域に分布しています。九州産業大学は大学の国際化を標榜し、留学生の受入れ及び学生の海外留学を積極的に推進しています。

このように、九州産業大学では国際色豊かなキャンパスを舞台に、様々な国際交流の場を展開しており、学生のグローバルな視野や国際感覚の醸成に最もふさわしい環境を提供しています。

今後も、世界のいろいろな国からの留学生が増えることになり、日常的に異文化交流に触れる機会もますます増えることでしょう。



1. 外国人留学生在籍数上位10大学(私立大学)
平成12年5月1日現在

順位	大学名	留学生数
1	早稲田大学	1,129
2	日本大学	768
3	拓殖大学	709
4	明海大学	486
5	慶應義塾大学	484
6	九州産業大学	471
7	中央大学	452
8	立命館大学	425
9	城西国際大学	422
10	立正大学	409

文部科学省留学生課調べ

2. 九州産業大学留学生数(出身国・地域別総計)
平成12年5月1日現在

出身国(地域)	学部学生数	学部研究生数	大学院学生数	大学院研究生数	合計
中国	276(119)	58(21)	60(27)	6(0)	400(167)
韓国	17(9)	3(3)	18(9)	1(0)	39(21)
台湾	16(11)	0	7(3)	0	23(14)
ベトナム	1(0)	0	0	0	1(0)
ミャンマー	1(0)	0	0	0	1(0)
バングラデシュ	3(0)	0	0	0	3(0)
クウェート	1(0)	0	0	0	1(0)
パナマ	0	0	1(1)	0	1(1)
チリ	0	0	1(0)	0	1(0)
メキシコ	0	1(1)	0	0	1(1)
合計	315(139)	62(25)	87(40)	7(0)	471(204)

()内の数字は女子留学生数で内数



留学生会会長に聞く!!

九州産業大学には、遠く母国を離れた者同士が国境を越えて肩を組み、互いに励ましあつて勉学に精進し、国際交流に寄与することを目的として、外国人留学生会が組織されており、中央会館地下1階の留学生懇話室を中心に、活発な活動を展開しています。今回、平成12年度留学生会会長に同会の活動等について聞いてみました。



カン ザイ キョウ
咸 在京さん
97M1082
リョウネイ
中国遼寧省出身

私は、経営学部国際経営学科に在学している咸 在京と申します。4月からは本学大学院の経営学研究科に進学し、「IT革命と21世紀の経営」について専門的に研究していく予定です。また、一方で私は昨年の4月に、平成12年度留学生会会長に選任され、慣れる間もなく、1年が経過しようとしています。この誌面で留学生会の組織、及び運営している行事などについて紹介してみたいと思います。

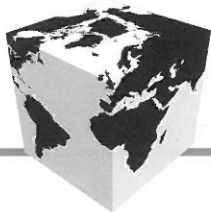
まず、留学生会の組織は、九州産業大学に在籍している外国人留学生(学部・大学院生の正規生)を正会員とし、「九州産業大学 留学生会規約」に基づき、定例総会で役員として会長1人、副会長2人、総務2人、会計1人を選出し運営しています。その他、総会では年間の活動内容の説明や会計報告を行っています。

次に、留学生会が大学と合同で行う交流行事には新入留学生歓迎会、新入留学生バスハイク、留学生送別会など留

学生同士の交流を目的としたものの他、スポーツ大会、クリスマスパーティー・カラオケ大会等の留学生同士はもとより、日本人学生や教職員とも交流を図ることを目的とした様々な行事を例年、企画、立案し、相互交流の輪を広げようとしています。

平成12年度は、秋にスポーツ大会として香椎スポーツガーデンでボウリング大会を、クリスマスを間近に控えた12月22日には、学食でクリスマスパーティー・カラオケ大会を催し、多くの日本人学生や教職員の参加を得て、交流を深めることができました。

このように、私たち留学生会では、本会の設立目的である留学生相互の親睦と友好を深め、さらには国際親善に寄与するため、留学生はもちろんのこと、日本人学生とも交流を図っていきたく願っています。



留学生の四季

遠く母国を離れ、本学に学ぶ留学生は、胸に描いた目標に向かって生活しています。

国際交流センターでは、留学生会の協力で、四季それぞれの交流行事を開催しています。これらの交流行事には、日本人学生が参加できる行事もあり、少しずつではありますが、参加者も増えてきており国境をこえた友情が育まれています。

4月	入学式 H12.4.3(月)10:00~13:00~ 体育館 
	新入留学生オリエンテーション H12.4.5(水) 学部1年 大学院1年 
	新入留学生歓迎会 H12.4.26(水)18:00~20:00 学生食堂(中央会館1階) 留学生:83人 日本人学生:58人(協カサークル含む) 教職員:62人 計:203人 
5月	在留生活指導会 H12.5.9(火)11:00~12:00 N101番教室 留学生:227人 
	新入留学生歓迎バスハイク H12.5.21(日)8:30~17:00 三井グリーンランド 留学生:91人 
10月	留学生ホームビジット H12.10~11 留学生:61人 受入れ教職員:28人 
11月	留学生の為の交通安全指導会 H12.11.2(木)10:00~11:30 N101番教室 留学生:147人 
	香椎祭(留学生の模擬店) H12.11.3(金)~5(日) ●中国 ●韓国 ●台湾 
	ボウリング大会 H12.11.18(土)12:00~15:00 香椎スポーツガーデン 留学生:50人 日本人学生:15人 交換留学生:4人 教職員:7人 計:76人 

12月	留学生クリスマスパーティー・カラオケ大会 H12.12.22(金)18:00~20:30 学生食堂(中央会館1階) 留学生:135人 教職員:19人 日本人学生:20人 交換留学生:3人 計:177人 
	旧正月のお祝い H13.1.27(土)12:00~14:00 国際交流センター懇話室 留学生:35人 教職員:26人 計:61人 
3月	留学生送別会 H13.3.16(金)18:00~20:00 リーセントホテル 
	学位授与式 H13.3.19(月)10:00~ 体育館

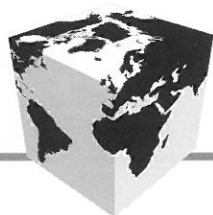
故郷を遠く離れて



グエン・ホン・ニヤットさん (99KK040)
 国際文化学部国際文化学科
 ベトナムハノイ市出身

現在ベトナムから福岡地域に留学している学生(学部在籍)は、本学国際文化学部国際文化学科在籍のグエン・ホン・ニヤット君と福岡教育大学に在籍している女子留学生の2人のようです。ここでは、故郷ベトナムから遠く離れて留学生生活を送るグエン君に話を聞いてみました。

- 〈本学入学の動機は〉**
 日本に来る前、ハノイ外国語大学在籍時に、日本の青年海外協力隊の先生(日本語)と知り合い、話していくうちに、日本への留学願望が増えました。たまたま、その先生が福岡県八女出身で、九州は住みやすい所という話を聞き、大学はどこがいいかと尋ねたら1番目に九州産業大学を推薦してくれたので、試験を受け合格しました。
- 〈最初に福岡にきての印象は〉**
 福岡はきれいな街で、人が大変親切という印象を受けました。それと食べ物うまいですね。ただ福岡だけではないと思いますが、ベトナムでの緑の印象が強かったので、都市化されている割には緑が少ないと思いました。
- 〈日本の食べ物には慣れましたか〉**
 日本に来て食べ物の種類が多いのに驚きました。すぐに感じたのは日本の味付けが薄く甘いという印象を持ちました。でも刺し身、天ぷら、納豆何でも大好きです。ただ果物はベトナムの方が種類も多くおいしいです。ベトナムに行かれることがありましたら、是非果物を食べて下さい。
- 〈グエンさんは、入学して1年間大学寮で生活、今は下宿に住んでいます。日本での生活はどのようなですか〉**
 日本に来てはじめての生活が大学寮で、日本人学生と同室でした。最初は生活習慣の違いに戸惑いもありましたが、次第に慣れてきて楽しい生活を送ることができましたし、友人も多く出来ました。今は下宿で、ここもほとんどが九州産業大学の学生なので楽しく生活しています。ただいつもは食事がついていますが、現在春休みなので自分で料理を作っています。郷に入れば、郷に従うことが、異国の生活に慣れる一番の近道ではないでしょうか。ただ日本の物価は高いと思います。時々国へ電話をかけますが、1000円のテレホンカードで6分しか話せず困りました。今ではEメールを利用しています。便利で経済的なので助かっています。
- 〈将来の進路は考えていますか〉**
 できれば大学院に進み修了後、ベトナムへ帰り日本で学んだことを生かせる仕事につき、同じアジアの国である日本とベトナムの交流に寄与したいと思っています。
- 〈最近日本からの観光客が急増しているベトナムのPRを〉**
 ベトナムは、インドシナ半島東部に位置し、面積は約33万平方キロメートルの南北に細長いS字型の国です。気候は南と北で違い、南部では乾期と雨期がはっきりしています。僕が住んでいるハノイは北部に位置します。温度は年平均10度で九州と同じ位の気候ですが、冬の寒さは、福岡の方が厳しいです。ベトナムは、自然に恵まれている国で、名勝地もたくさんあります。先ほども言いましたが果物も大変おいしいです。機会がありましたら一度遊びに来て下さい。



卒業生通信(母国で頑張っています)

国際交流センター報 (JUNCTION) を創刊するにあたり、九州産業大学を卒業され、それぞれの分野の第一線でご活躍されている韓国、中国、台湾の卒業生から、大学及び在学生のみなさんへ熱いメッセージが届きましたので、ご紹介いたします。

捨てることができる人間の知恵 金 鐘 琪 さん



私は、1999年に九州産業大学芸術学部と姉妹結縁した、韓国東西大学校デザイン学部の学部長に就いています。

さて、このたび、国際交流センター報が創刊されることを知り、喜びに堪えません。

私は、九州産業大学の卒業生の一人として、みなさんに留学についてのメッセージを伝えたいと思います。

留学を希望する多くの人たちの共通点は、財産、名誉、権力などの誘惑を受けながら社会生活をしているうちに、ふと自分の過去を振り返ってみて、自分の置かれている環境を新しく変えたくて留学を決心するものです。

未知の世界で大きな夢を抱いて、留学の道を選ぶのであるが、文化や習慣などの異なる新しい環境と接することに大きな不足点を感じながら、寂しさと挫折の中で自分との闘いを挑みながら、新しい文化に慣れるために努力している。しかし、そのようなもがきがたまに自分の文化さえ忘れていく一部の学生たちの誤った認識が、留學生活の暗い影になることもある。

ネットワーク時代の留学というのは、学問を研究することも重要であ

るが、異国の文化を理解するとともに、自分の文化と習慣を適応させ、自ら国際社会に適応する能力を育てることだと思えます。

グローバル時代の学問の危機は、時間と場所を超えて新しい局面に遭遇して、教育の方法論までも新しく定立する時期に留学の意味自体も新しく変わらなければならないと思う。

大部分の留學生たちは、留学を終えて帰国するときは、過去の自分を忘れたまま、夢の中で膨らむことになる。まさに凱旋將軍になったような、あるいはすべての学問を超越した予言者になったような気分で帰国するのであるが、現実の厳しさに耐えられなくて、再び放浪者になるケースが多い。

留学の期間は、自分を客観的にみるよいチャンスだ。自分の一長一短、得るものと捨てるもの、期待するものと期待しないものなど自分を解体して、新しく組み立てることができるきっかけを作るのが学問研究以上に留学の長所であると思う。そして、留学期間中に多くのものを捨て、多くのものを期待しない知恵を得ることが、多くのものを得るきっかけとなるであろう。

大学院修士課程(芸術研究科)を1986年に修了してから何年も経っていますが、留学について思索をめぐらすことが多く、留学して本当に良かったと感慨に浸っています。

思い出がいっぱいの九州産業大学 王 如 儀 さん



私は1991年に九州産業大学の芸術学部写真学科に入り、4年間の学部課程、2年間の修士課程、2年間の大学院研究生を経たので、日本で合計8年間の留學生生活を過ごしました。卒業後、帰国して、中国上海工程技術大学の芸術設計学部写真学科に就職し、先生の仕事に従事しています。

ご承知かと思いますが、九州産業大学芸術学部と上海工程技術大学芸術設計学部は1999年に友好交流協定を締結しました。これも、何かのご縁なのかという喜びを隠せません。

若いとき、中国文化大革命のせいで勉強できなかったため、私が九州産業大学に入ったのは38歳の時でした。当時、大学の校門に入るとき、いつも警備員さんから「先生 おはようございます」「先生こんにちは」と先生に間違えられて挨拶され、恥ずかしかったのを憶えています。でも、大学に入ったのは、私の人生を一転するほど大変重要なことなので、一生懸命勉強する以外に、恥ずかしい思いをする場合じゃなかったのです。

在学していた8年間のなかで、九州産業大学の先生や職員の方々から教育、指導を受け、いろいろとお世話になりました。よい環境のもとで学業の

成就ができ、現在の仕事に大変役に立っていると思っております。

特に、私の恩師の諸先生方は、豊富な教学経験と幅広い知識の持ち主で、人生の面でも、よい勉強になり、いまでも連絡を絶えずに、写真動向の情報、新しい写真技術と教学経験を賜わっていて、本当にいい先生たちに恵まれて幸せだと思えます。

先生たちのお陰で、日本で身につけた知識を現在の職業に活かして、今まで上海ではあつたことのない授業の仕方であつた授業をし、生徒から評判を受け、生徒たちに「わたしが好きな先生」に選ばれました。また、学部の課程増設にも加わって、積極的に新科目の授業を担当し、大学側からも「優秀先生」の称号を授与されました。大学以外にも、写真業界の業者に頼まれて、よく講座を開いたりしています。

私の夢、また私のライフワークとしての仕事は、中日の平和と中日の文化交流の促進です。数年前から少しずつ着手しており、これからも、架け橋になるのは単なる夢ではないと信じて頑張っていこうと思えます。

最後に、私を育てて下さった九州産業大学のみなさんに対し、いつも「ありがとう」の気持ちだけは一生忘れないつもりです。

みなさんへの感謝の気持ちを込めて 莊 真 嘉 さん



「光陰矢のごとし」であることをこの頃痛感します。私は、2000年3月に大学院修士課程(経営学研究科)を修了しました。母国である台湾に帰ってもう一年が過ぎました。7年半の留學生生活を振り返ってみると、感じたことがたくさんあります。

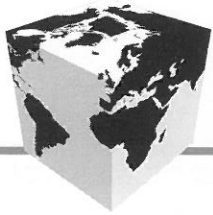
日本で勉強している間に、寸暇を惜しんで私は大半の時間を学業に費やし、これまでの自らの考えに周囲で起こった新たな事象を課題として設け、専門領域の諸問題を整理することに努めました。また、大学院在学中、九州産業大学の国際交流センターで、留學生アドバイザーとしてアルバイトをする機会に恵まれたので、その間に日本の事務のシステムに慣れました。同時に各国からの留學生たちと接し、彼らにさまざまなサポートやアドバイスをしました。その間、通訳の仕事も行い、貴重な経験を積むことができました。

現在、台湾の台南科学園区にある大億科技という会社でコスト分析に

関する仕事に従事しています。133人の人員がおり、私はBL(Back Light)生産部という部門に所属しています。仕事の面では、まだ経験不足の点多々あると感じています。これまで大学で学んだ学問やその他の知識を基礎として、職場で必要とされる技能を身につけるために、謙虚な気持ちで一つ一つをしっかりと覚えていくつもりです。

私は部門内の教育訓練委員を担当しています。同僚からいろいろな専門知識を教えてもらいました。同時に、私も新入社員に対して、部門内の組織構造と部門内スケジュール等を指導、助言しています。また、同僚に日本語も教えています。たまに通訳の仕事も入ってきます。学生時代のアルバイト経験を生かせば、職場に貢献することにもなります。今の会社で、まだまだ勉強することが山ほどありますが絶えず学ぶ態度を失わず、周りの人と協力して、自分の職場での役割を果たしたいと考えています。

卒業後も、こうしてみなさんとの絆を大切にできる機会をいただき、ここから感謝の意を表します。



国際交流情報の発信基地 (国際交流センター紹介)

新聞・雑誌が自由に閲覧！！

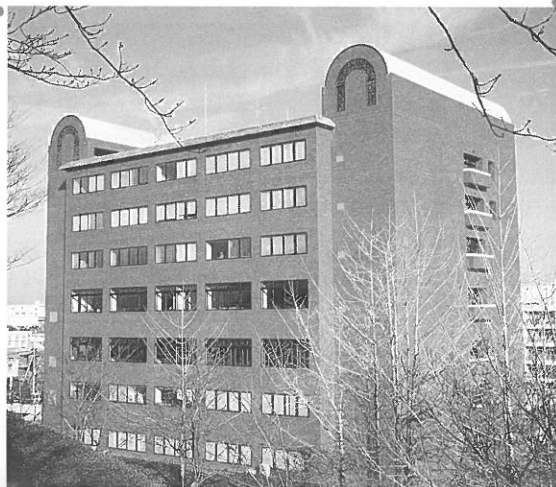


国際交流センターには、『人民日報』『韓国日報』『JAPAN TIMES』『THE NIKKEI WEEKLY』の新聞が置いてあります。これらの新聞の閲覧を目的に国際交流センターに足を運ぶ留学生や一般学生も少なくありません。また、『留学ジャーナル』『地球の歩き方』や留学関係の雑誌類も自由に閲覧することができます。気軽に立ち寄って留学生と話してみたら、雑誌や本からだけでなく色々な国に関する最新の情報を得ることができるかもしれません。

キャンパス内で異文化体験！！ 国際交流センターの懇話室

国際交流センターには、講義の合間に休憩したり新聞・雑誌を自由に読むことのできるスペースがあり、ここには留学生の奨学金やスポーツ大会などの行事から海外留学や語学試験の情報まで幅広く提供しているコーナーもあります。

また、「旧正月の祝い」のパーティーなど留学生行事も年に数回開催され、昨年度は留学生が腕を振った水餃子、トック鍋や焼ビーフンなどを賞味することができました。皆さんも中国語や韓国語が飛び交うこの身近な懇話室を利用して、キャンパス内で異文化体験をしてみませんか。



知っていますか？留学生専用の「レターケース」

九州産業大学の留学生(学部・大学院のみ)には、専用の「レターケース」を設けています。主に国際交流センターからの通知をはじめ、行事の案内や関係書類の配付などに利用されており、多くの留学生が週1～2回は必ず国際交流センターに立ち寄って、レターケースの確認をしています。たまに留学生同士での連絡用ポストとしても利用されているようです。



展示ケース

九州産業大学は現在、中国、韓国、ドイツ、フランス、アメリカの大学等13校と国際交流協定を結んでいますが、これらの協定校からのお土産や記念品の数々がガラスケース内にとりこめ飾ってあります。中国の茶器セットや色鮮やかな少数民族の人形、韓国の仮面劇のお面など珍しい品々を楽しむことができます。



留学案内

～まずは情報収集から!!～

九州産業大学の交流協定校への派遣留学から、短期・長期を問わない在学中の私費留学、語学研修、またワーキングホリデーまで皆さんの目的や期間にあった留学についての情報提供やアドバイスを行っています。

また、長期休暇を利用した『海外語学研修パンフレット』も数多く揃っています。「留学には興味があるけど何から取り組んでいいのかわからない」とそこから先に進めない人も一度気軽に足を運んでみてはいかがでしょうか。ベテランスタッフの時には人生相談を交えた適切なアドバイスを聞く中で、ぼんやりといていた留学の未来像が見えてくるかもしれません。

～国際友好会の紹介～

国際友好会は、留学生と日本人学生との交流を促進することを目的としている九州産業大学の留学生支援団体です。3年前に発足したまだ新しい会ですが、小さな国際交流を目指して、今後も留学生行事などで留学生と日本人学生との交流の架け橋となるように積極的に活動を行うことが期待されます。

アドバイザー紹介



商学研究科修士課程2年 李 美花 (中国)

国際交流センターには今年で4年目を迎える中国延辺出身(朝鮮族)のベテランアドバイザー李美花さんがいます。現在、商学研究科に在学中の李さんは、留学生にとって勉強上の悩みから生活に関することまで何でも相談にのってくれるお姉さん的存在です。

また、本学の卒業生で韓国出身の元炳善職員(バスケットボール部監督)も頼もしい存在です。4月からは新たに台湾出身の経済学部3年李環薫さんも加わり、中国・韓国・台湾に興味を持っている皆さんの語学の問題から個人旅行などのジャンルに至るまで丁寧にお応えします。その他、相談があれば気軽に声をかけて下さい。

インターネット ホームページのご案内

<http://www.ip.kyusan-u.ac.jp/>

九州産業大学の国際交流
協定締結校などの情報を
...

